



What Design can do for SDGs ～社会課題を解決するためのデザイン —— 第1回

デザインに何ができるのか？

九州大学大学院 芸術工学研究院 SDGs デザインユニット長 教授 井上滋樹

1 はじめに

1) 今の生活を続けていくと人類の未来はない

1984年、大学生であった私は、赤道直下のアフリカを東西にヒッチハイクで単独で横断した。ザイールではマラリアにかかり、内戦が勃発したウガンダでは、弾丸の中を走るなど命がけの体験をしたが最も心が痛んだのは、訪れた6カ国の地域で、貧困や飢餓で悩む人々を見たことだ。帰国すると、日本が夢のような国に思えた。経済的にアフリカ諸国と比較にならないくらい豊かであったからだ。

学生時代にアフリカで飢餓や貧困、内戦で多くの人が亡くなる悲惨な状況を見て思ったことは、「こうした課題に対して何ができるのか？」という自分自身への問いであり、以来その問いは私にいつも問いかけてきて、自問自答をしてきた。

帰国後、ビジネスマンになった私はCOSMORAMAというNPOを立ち上げ、仕事の傍らでアフリカを日本に伝える活動を始めたり、途上国の貧困に関する調査や研究、商品開発などに携わってきたが、その問いに対する答えは、「自分には何もできない。」である。

しかし、そう考えているのは私だけではない。社会活動に関わっている多くの仲間が同じような無力感を感じて、行動することすら諦めている。アフリカ大陸の貧困は、国際組織などが巨額の投資をしてきたが、解決できなかった。国にもできない、国際機関にできないことを一体私たちに何ができるというのだろうか。

そうした中で、2015年SDGs (Sustainable Development Goals = 持続可能な開発目標) という目標

が国連で採択された。そこには、飢餓、貧困、不平などといった人類が解決すべき目標を世界193各国で達成しようというゴールが設定されている。

一人では何もできない。大きな国際組織ですら何もできないかもしれない。

しかし、この目標はまた、私たちが、今の生活を続けていくと人類の未来はないという危機感をも示している。SDGsという目標が世界各国で共通の課題として設定されたことは、もう一度、私たちはこの大きな課題に対して何ができるのかを再考する大きな機会ではないか。私は、SDGsをそう捉えた。

「大きな課題を前にして私たちは一体何ができるのか!？」。これこそが今、改めて私たち一人一人に突きつけられた大きな問いなのである。

2) デザインは社会問題を解決できるのか？

この連載では、これまでビジネスとの関係性の中で語られることが多かった「デザイン」の社会的役割について、世界の動きや事例を紹介し、社会課題を解決するためのデザインの役割を整理しつつ、SDGsの目標達成のためにデザインの可能性、課題解決のための方法論、社会連携の在り方について論じていきたい。

第一回目は、世界で始まっている社会課題を解決するためのデザインへの取り組みへの世界的機運の高まりと九州大学の取り組みを紹介する。

SDGsとは、2015年9月の国連サミットで採択された国連加盟193カ国が、2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた国際目標である【図1】。“地球上の誰一人として取り残さない”を合言葉に、持続可能な世界を実現するための17のゴー